

# 平成13年度 最上川水系流域委員会村山地区小委員会 (第6回)の議事概要

## 1. 開催日時

平成14年2月6日(水) 10:00~12:00

## 2. 場 所

ホテルキャッスル(山形市十日町4-2-7)

## 3. 出席者(11名)

委員:前川座長、青木委員、五百川委員、奥山委員、高橋委員、仲野委員、  
村形委員、  
山崎委員、横山委員、吉野委員、渡辺委員

地 整:山形工事事務所長、最上川ダム統管理事務所長

山形県:山形県土木部河川課長、村山総合支庁河川砂防課長

一般傍聴者:6名

## 4. 議 題

- (1) 第7回最上川水系流域委員会への報告事項
- (2) 公聴会の意見(大臣管理区間)
- (3) 大淀分水路の考え方
- (4) 最上川水系河川整備計画原案(大臣管理区間)への盛り込み方
- (5) 公聴会の意見(知事管理区間)
- (6) 最上川水系河川整備計画原案(知事管理区間)への盛り込み方
- (7) 今後の進め方

## 5. 記者発表等

平成14年1月28日(月) 山形工事事務所ホームページより傍聴希望者を  
募集

1月28日(月) 山形県河川課から委員会開催及び傍聴希望のチ  
ラシを

流域市町村機関へ掲示依頼

1月28日(月) 山形県庁記者クラブ(16社)、専門紙(4社)に小  
委員会開催 投げ込み

2月6日(水) 小委員会取材 山形新聞社

## 6. 審議結果

- (1) 第7回最上川水系流域委員会への報告事項について  
第5回村山地区小委員会における整備計画原案に対する意見について、

第7回最上川水系流域委員会(H13.12.26開催)へ報告した内容を説明

(2) 公聴会の意見(大臣管理区間)についての質疑内容

○大石田の公聴会では、公聴会として十分に住民の意見を聞き、また、十分に説明しきれていなかった。大石田は大淀トンネルの下流にあり影響を受けやすいところ。公聴会で出た質問数(資料2)でも分かるとおり、不安を持っている住民がとても多い。影響を受けやすいところに懇切丁寧に説明をし、住民の不安を取り除くのが筋だと思う。

A：今後ともより分かりやすい説明をしていきたいと思います。大淀の分水路の件につきましては、もっと具体的な数字的なもの等、再度補足の説明をさせていただきたいと思います。

○資料2(公聴会の意見)の返答に、道路の問題については道路管轄であり河川ではないというのがあるが、河川に架かる橋など、河川・道路の両方に関わる問題もある。横の連帯を持たないと進まない。消流雪用水事業についても同様に農水省と連携を図ってもらいたい。

A：河川管理者の観点で改善が必要な道路・橋等について、管理者へ意見し、また連絡調整を図りながら、行政として一体となった取り組みが行えるようなお一層努力して参ります。

○公聴会意見(須川の浄化要望に対して)須川へ温泉排水を流入させないのは、現実的に難しく、又、中和を行えば環境を破壊することにもなる。須川上流部の硫黄鉱山からの排水については、過去に対策していたようだが、現在、硫黄鉱山からの水がどれ位、須川の水質に影響を及ぼしているのか。

A：鉱山排水対策については、管理者が対策し、一応完成していると聞いておりますが、確認致します。また、県や山形市などで須川の酸性水について検討していますが、その後の維持管理面の問題などもあり、なかなかこれという決め手がない状態です。まずは、支川をきれいにすることや、須川の高水敷に支川のきれいな水を流し、水の流れる遊べる空間を作ること、また、河川にゴミを捨てない等の形できれいにしていくことを考えております。

(3) 大淀分水路の考え方についての質疑内容

○昭和42年当時より、上流の整備が進み氾濫が少なくなる分、下流への流量が増えると思うがどうか。

○村山地区の公聴会の意見で、大淀の放水路を作っても水位があまり下がらないのでは内水被害が出るのではないか、という不安の意見があるが、対策として最上川の流路が矛盾するのではないか。

○大石田の下流に大淀と同様な所があり、また、尾花沢地区で約90度に曲がる箇所がある。そういう場所に多く水が溢れるなど影響はないのか？

**A：**昭和42年当時は、堤防が上流にも大石田にも出来ておらず、溢れた状態で大石田に洪水が流れ、整備計画の目標流量4,100m<sup>3</sup>/s以下でした。その後、堤防整備を行い、洪水は川の中を流れるようになりましたが、白川ダム・寒河江ダム・大久保遊水地等の洪水調節施設をつくり、洪水の時は水を溜め、雨が止んだ後にゆっくり流すなど、下流の大石田に被害が無いよう配慮しております。村山地区では洪水調節施設をつくってもなお、大淀の狭窄部があるため洪水時に安全な状態ではなく、下流大石田地区整備が進んできたため、大淀地区の整備計画を盛り込むことにしております。もちろん下流の影響を考慮した上で、最上川全体のバランスを常に頭に置き計画しております。

○住民の方がいろいろ心配するのは、これまで色々の洪水を経験し、河道の計画も変遷してきている中で最上川がどういう状況にあるのか、住民にわかりやすい説明をし、不安が解消出来るよう説明することが大事。

○大淀トンネルについては、模型実験や実際に分水を実施している河川が、上流・下流で洪水時にどの様になっているのか説明していくことが大事ではないか。

**A：**大淀トンネルの計画を整備計画原案に盛り込みましたが、実施の段階においては、さらに模型実験や景観の問題、学識経験者の意見を聞きながら、情報公開をし、わかりやすく住民に説明をした上で事業を進めて参ります。

○大淀トンネルに関して今回の説明では住民の方々が理解することは難しいでしょう。わかりやすくするために模型実験をビデオ等の形で住民に説明することは出来ないか。さみだれ大堰のような仕組や構造が分かるモデルがあると良い。また、公聴会で出た様々な不安など心配事は今後にかかしてもらいたい。

**A：**ビデオについてはまだ作成していない為間に合いませんが、これからさらに実験を重ね、安全性を確認し、情報公開をして参ります。

○他の狭窄部などの事例を参考にするなどして、大淀分水路の計画を立てられていると思うので、こういう例を参考にして大淀分水路の構造にしたこと等を公開すると住民も安心するのではないか。その地区の人々と意見交換が出来るようになり、地域間を越えた交流が深まるのでないだろうか。

(4) 最上川水系河川整備計画原案(大臣管理区間)への盛り込み方

事務局案を了解

(5) 公聴会の意見(知事管理区間)についての質疑内容

特になし

(6) 最上川水系河川整備計画原案(知事管理区間)への盛り込み方

○用語の使い方についてだが、「総合学習」というのは学校で行われる全ての授業などを含む大きい概念であるため、「総合的な学習の時間」または「調べ学習」が適切。

**A：検討させていただきます。**